

UNGEGN2025報告 「漢字圏の地名委員会の設置について」

高木彰彦

(九州大学名誉教授)

(UNGEGNアジア東部会長)

国連地名専門家グループUNGEGNの活動 —漢字圏部会の設置に向けて—その1

- **国連地名専門家グループ** United Nations Group of Experts on Geographical Names, UNGEGNは、国連の経済社会理事会ECOSOC 経済社会局DESAに設けられている9つの専門機関の1つ。
- 1959年にECOSOCが国家・国際レベルでの地名標準化の準備。
→1960年、**地名専門家グループ** GEGN会議開催(1967年より UNGEGNに改称)。1967年、第1回**地名標準化会議** United Nations Conference on the Standardization of Geographical Names, UNCSGNの開催。
- 2017年に2つの組織が統合されて、新たに国連地名専門家グループ会議が2年に一度開かれることになった。第1回—2019年、第2回—2021年、第3回—2023年、**第4回—2025年(4月28日～5月2日)**。

国連地名専門家グループUNGEGNの活動 — 漢字圏部会の設と置に向けて— その2

- 日本からは、国土地理院が1960年代から前身のUNCSGNおよびUNGEGNに参加。学識経験者の参加は2012年からである。これは外務省からの依頼によるもので、田邊裕東大名誉教授と渡辺浩平帝京大教授が参加してきた。
- 田邊名誉教授はアジア東部会長を務めていたが2023年の第3回セッションを最後に勇退され、後任として高木が引き継いだ。
- UNGEGNにはその下部組織として、**部会division**と**作業グループWorking Group**がある。
- 部会は24あり、地理的に隣接する地域を束ねたもの（東南アジア部会など）と、共通の言語で束ねたもの（フランス語部会など）から成る。
- 日本は、中国加盟時に東アジア部会を構成していたが、その後韓国・北朝鮮が国連に加盟した際に、「中国部会」と「**アジア東部会（中国を除く）**」とに分かれて、今日に至っている。
- 2年ごとに開かれるUNGEGNのセッションでは、共通テーマに基づく報告のほかに、部会ごとの報告や加盟国ごとの報告、WGごとの報告などがなされる。
- これ以外にも、オンラインによる部会長・事務局会議が半年に一度開かれている。

国連地名専門家グループUNGEGNの活動 — 漢字圏部会の設と置に向けて — その3

- 2023年5月に開かれたUNGEGNの第3回セッションにおいて、田邊名誉教授が退任の挨拶をされた際に、漢字圏部会の設立について言及され、UNGEGNの記録に「漢字表記に基づく新たな部会設立への関心は後任に託された」と記された。
- UNGEGNの部会長・事務局会議でも、執行部による漢字圏部会設立への関心が話題になった。
- 一方、高木は外務省と相談しつつ漢字圏設立の準備に取り組もうとしたが、北朝鮮が長らく不参加のため、正式の部会を開ける状況ではなく、実現の可能性は低いというのが外務省の見解であった。
- 2024年11月に開かれた部会長・事務局会議で第4回セッションの準備に向けた取組が活発化し、漢字圏部会設立に向けて取組を進めようとした。このために、韓国側と非公式に意見交換し、中国側との接触を試みた。
- 他方で、高木はUNGEGNセッションでの部会報告divisional reportを、個人的見解として「漢字文化圏部会の設立に向けて」というタイトルで提出した。
https://unstats.un.org/unsd/ungegn/sessions/4th_session_2025/documents/GEGN.2_2025_107_item4a.pdf

国連地名専門家グループUNGEGNの活動 —漢字圏部会の設と置に向けて—その4

- 前記部会報告の概要

- はじめに

- 1. 進め方についての手続き—①漢字は言語ではなく文字、表意文字のため読めなくとも伝播。文化として捉えるべき。②文字数が非常に多いため、字数制限が国ごとに異なり、表記方法も異なる。中国は漢字のみ、日本は漢字・ひらがな・カタカナ、韓国・北朝鮮はハングルのみ。
- 2. 名称、目的、その他検討事項—名称は漢字圏よりも漢字文化圏が望ましい。あるいは、関係3カ国の読みを併記して「Hanzi/Hanja/Kanji」という名称も可。今後はブレインストーミング的なインフォーマルな会合を持ち、目的も含めた検討課題について意見交換したい。
- 当初、5月に開かれたUNGEGN第4回セッションでの漢字圏部会の初会合をもくろんだが、中国側メンバーは行政機関の一員で上部組織の意向を踏まえる必要があり、自由な意見交換は困難で実現せず。5月1日に、中国・韓国・日本代表数名による非公式の会合をもち、漢字圏部会設立に向けて今後も話し合いの場を設けること、非公式の会合であるため記録は残さないことを確認した。
- 今後も継続的に話し合いの場を設け、できれば次回UNGEGNセッションまでに3カ国によるオンラインでの意見交換の実現を目指したい。

第4回UNGEGNセッション(2025年4月28日～5月3日)日本代表団とPierre Jaillard UNGEGN議長

